

4 芝高輪コース 日比谷公園—品川駅／目黒駅 9.5km

まちの変遷を見守ってきた数々の坂に刻まれる激動の歴史

港

区芝から高輪、白金にかけての一带は、江戸時代の幕開けとともに開発された。天正18年(1590)、徳川家康は高輪村から江戸に入り、将軍家の菩提寺・増上寺を勧請するとともに町割りを開始。東海道を海岸沿いに定めて高札場を置き、寺町を築いて市街地を開発していった。また幕末には、この地は外国公館のメッカとなった。そうした歴史は、この土地にいまも息づいている。坂の多い道をのぼりおりしながら、愛宕山、増上寺、泉岳寺など江戸時代からの名所と、幕末・維新期の激動をいまに伝える寺院と、各所にのこる明治の洋風建築などをめぐる4つの散歩道を歩く。



※掲載内容は平成8年3月時点のものです。

4-a 芝御成道散歩 日比谷公園—赤羽橋 3.0km



※掲載内容は平成8年3月時点のものです。

4-b 三田坂めぐり散歩 赤羽橋—伊皿子坂 2.3km



※掲載内容は平成8年3月時点のものです。

4-c 高輪潮の香散歩 伊皿子坂—品川駅 1.5km



※掲載内容は平成8年3月時点のものです。

